

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300244		
法人名	社会福祉法人 迫川会		
事業所名	いちようの里 グループホーム ぎんなん荘 (ユニット名 北棟)		
所在地	宮城県栗原市築館字下宮野館108		
自己評価作成日	平成27年7月16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望にあわせた外出(買い物、ドライブ等)や、季節を感じていただくための外出(花見、あやめ、蓮、白鳥見物等)、外食や保育所・小学校の子供たちとの交流など地域との関わりを多く持つよう努めている。 ・朝のミーティング後危機管理訓練を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、介護支援事業所、グループホーム2棟が一体となって運営されている。公共施設、商店街、田園地帯を一望できる小高い山にホームはある。災害の準備もしっかり行われており、毎朝入居者と災害訓練を行い、合図に応じた避難行動が身につけている。隣の保育所、小学校、中学校、地元住民との交流も深く、夏祭り、季節ごとの行事には参加者も多く地域に密着したホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 いちちょうの里グループホームぎんなん荘)「ユニット名 北棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	花植え、慰問を実践。又、法人としての理念の他に、毎年GHの目標を各棟に掲げ、毎朝ミーティング後に唱和している。	職員は入居者の思いを大切に生活支援と地域の交流を大切に理念を毎日朝礼で唱和し、共有している。介護目標は、各ユニットでミーティング後に確認しあい日々のケアに反映し、年1回見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所、小学校の季節ごとの行事に招待されたり、慰問を通して地域住民との交流を行っている。又、小中学校との交流の際には職員と利用者が製作した雑巾などを寄贈している。	北保育所の夏祭り、宮野小学校の運動会に招待され車椅子の人も参加した。小学4年生は1年間担当し入居者を訪問している。送られた写真入手紙を枕元に飾っている。ボランティアの歌や踊り、紙芝居の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どのようにアプローチをすれば良いのか、推進会議で話し合いをしたことはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のなかでアドバイスを受けて、実際にサービスに反映させたことがある。	市の職員、包括センター職員、区長、民生委員、家族代表、入居者の参加で年6回開催している。ホームの課題である防災の地域協力体制、消火栓場所の確認を関係者間で話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議を通して、市や地域、包括から助言を得ている。	受診における職員対応の相談や亡くなった方の身元引取りなどに関し、市に相談している。市の健康祭りにキャラバンメイトで構成する、認知症の劇に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内では身体拘束についての委員会を設けて定期的に身体拘束をしない取り組みや廃止について話し合っており、GH内でも勉強会を開き、意見交換等を行っている。	言葉や行動の制限をしていないか、日常を振り返り勉強会をしている。帰宅願望の方が玄関の自分の靴を確認して安心するなど、その人にあつた対応をすることで無断で外出する人はいない。運営推進会議で地域での見守りをお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内で勉強会を開き、意見交換や意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、北棟利用者の中に対象者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約、改定とその時々で身元引受人や家族の皆様に、わかりやすい説明を行うよう努めている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議には家族と利用者の代表が1名ずつ参加している。苦情受付窓口がある。又、ご意見箱を置き、要望を随時受け付けているが、意見箱は現在ほとんど利用されていない。	要望等は家族来所時に聞き取り、こまめに記録し、職員間で共有している。行事後の懇談会や利用料の支払い日に家族から意見を聞いている。家族の相談にのったり季節食や郷土食の要望に対応した。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会又は申し送りにて職員の意見、要望を聞き、随時運営に反映させるよう努めている。	物品購入等の要望は掲示板に書き込み申請している。パソコンソフトやシートベルト、夜勤用電気スタンドなどの要望を反映し購入した。ストローの使用やケアの仕方についてなど、提案があり話し合い対応している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は行われていない。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新たに配属された職員には、マニュアルに沿って指導担当職員を配置して新人研修を行っている。又、研修委員会を通して研修に参加することで、各職員が学ぶ機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栗原市内の老人福祉施設等親善ゲーム大会に参加し、交流を図っている。又、グループホーム協議会に加盟している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、要望などを傾聴し、家族と連携をとりながら良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、本人や家族から話を聞き、要望に応えられるよう努めている。又、毎月手紙にて近況報告を行い、面会時、必要時の電話報告等の際に話し合うことで、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話をすることで、何を必要としているのかを引き出し、見極め、できる範囲内で柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して利用者は職員と一緒にできる範囲内で家事手伝いを協力して行っている。他にも、できることへの見守りと、できない所を補う支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の担当介護士からの手紙、面会や電話等で近況報告を行い、外出、外泊の協力を得られるよう図っている。又、迫川会で催される行事には必ず招待状を出し、出席していただけるよう促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気のいい日に皆で馴染みの場所にドライブに出かけたり、又、通院時や外出時に家族と床屋等に寄ってくる利用者もいる。	孫が結婚式の様相で面会に来た。買い物は同級生の店と決めている。お盆に帰宅する方がいる。伊豆沼など昔馴染みの所に職員と行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見ながら、1人1人が楽しく穏やかに過ごせるように、職員間の申し送りを徹底したり、テーブルの配置等に常に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に行われていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者の立場に立った支援を心がけ、意見を出し合ったり相談する取り組みに努めている。	思いや、希望を寄り添いながら聞いている。家族のことや畑を作っていたこと、趣味のことなどを話してくれる。言葉が少なく把握困難な方でも、排便時腹を叩く、機嫌が悪い時はトイレなどのサインを把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントのための情報収集シートと、センター方式の様式を併用し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の生活状況記録や日誌、申し送りノートを随時活用し、利用者の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当介護士が中心となり、家族や本人の話を聞き、介護計画に反映をしている。	担当者と話し合い、主治医、本人、家族の意向を聞きケアプランを作成している。6か月ごとに見直し、本人、家族の同意を得ている。持病のある方は医師の指示で減塩、体重等の調整を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェック表を活用し、毎日ケアの実践ができていないかを確認し、1か月毎に担当が評価として実践結果をまとめ、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じてできる範囲内で臨機応変に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や地域行事の参加で利用者の希望に応じて、できる限り外出が楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医や本人およびご家族と連携をとり必要に応じて支援をしている。又、異常の早期発見に努めるように主治医と連携をとって支援をしている。	全員がかかりつけ医の受診である。通院付き添いは家族が基本であるが5名はホーム職員対応である。今後は家族と相談し、訪問診療を考えている。歯科医が2週間に1回口腔ケアで来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、GHIには看護師が配置されていないため、主治医との連携をメインに置いて、緊急の時等には特養の看護師にアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際は、家族や病院と随時連絡を取り合い、情報を共有している。又、話し合いに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師不足のため、現在看取りは行っていない。	入居時看取りに関する指針、急変時対応指針を示しホームで出来ること、出来ないことを説明し本人、家族の同意を得ている。高齢化、重度化も含め関係者間で今後更に話し合いを重ね、前向きに検討していただきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	部署内で勉強会を開いたり、緊急対応マニュアルを活用して定期的に訓練を行っている。又、消防署の緊急時の対応講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年に2回の避難訓練を行っている他、ほぼ毎日の避難訓練中で随時に練習している。又、推進会議でも災害時に地域と協力できるよう話し合いをしている。	地域ボランティアの方々も避難誘導や見守りに協力参加している。ホーム独自では毎日ミーティング後危機管理として職員はヘルメット、入居者は防災頭巾をかぶり地震、漏電等にも備え訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者個人の人格を尊重し、誇りやプライバシーが守られるよう支援をしている。	名前は「さん」付けである。トイレ誘導、失禁時は周りの人に気づかれないようにしている。プライバシーを尊重して居室と浴室の前に衝立をしている。外出時、互いの服を選び合い出掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定ができるように、普段の会話の中から、本人の思いを引き出すよう心がけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できること、できないことを把握し、できる範囲内で利用者や家族の要望に添えるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期や身の回りの必要なものがあれば、担当介護士がメインとなり家族と連絡を取って揃えたり、環境整備に努めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものや、外食、出前、手作りおやつなどを楽しめるようにし、嫌いなもの、食べられないものについては代替を用意している。準備後片付けは利用者のできる範囲内で、職員と共に行っている。	栄養士が1ヵ月分の献立を作成し、調理は職員が行い、準備や片付けを手伝う入居者もいる。行事食の手巻き寿司やおやつのホットケーキ、郷土料理のはっと汁などを一緒に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取や水分確保の状況を把握できるようにしており、毎月体重測定も実施している。又、病気などで食事制限等がある場合は主治医の指示や栄養士の助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや口腔ケアの準備等、利用者に応じた支援を行い、利用者が歯磨きを行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できない所を補う支援を行い、できるだけトイレで気持ちよく排泄ができるように努めている。	一人ひとりの状況に合わせて誘導している。一人で行く方、介助の方全員がトイレを使用している。入居時にオムツ使用の方が、夜だけオムツで日中はリハパンに改善された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況記録を活用して、利用者それぞれの排便状況を把握している。又、主治医の指示の元で下剤のコントロールを行う他に、朝に牛乳を摂取して頂いたり、体操などで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外週6日の入浴日を設けている。気の合う仲間との入浴や、入りやすい雰囲気作りを努め、入りたくないという要望があれば、問題がない限り無理に勧めてはいない。	1番風呂や熱い風呂に入る方、仲よし同士2～3名で入る方などに合わせ、週5～6回支援をしている。拒む方は時間を置いたり、職員を代えて「下着を取り替えましょう」と工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転せず、メリハリのある生活が出来るように図っている。基本的に、利用者が好みに過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があった場合は申し送りや処方箋を活用して職員間で情報を共有している。服薬管理は、誤薬がないように職員が二人以上一組となって確認し、その都度手渡しをして、確認簿をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴などから、できることを活かし、役割を持つことで生活にハリが持てるよう図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見てドライブに出かけたり、苑庭を散策したり、市の内外への外出行事を計画する等、できる限り、本人の要望に沿って外出できるように支援をしている。	天気の良い日は車椅子の方も一緒にホーム周辺を散歩する。広々とした玄関前で日光浴を楽しむ方もいる。希望を聞いてドライブは若柳のお花見、花泉のぼたん園、伊豆沼のはす祭り等四季折々に出掛け季節感を味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にGHの金庫で小遣いを預かっているが、それとは別に、本人の要望によって、自分の財布を持ち、小遣いを管理できるよう配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合、又は電話が来た際は取り次げるよう配慮している。以前は自分の携帯を所持されていた利用者もいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベートが守られるように、入り口に暖簾や衝立使用したり、午前と午後に温度湿度を確認し、(不快感、清潔感、安全等)環境整備に努めている。又、季節の花を飾る等して、四季の移り変わりを感じられるようにしている。	リビングは広く明るく、臭気や空気の淀みがない。手染め和紙で作られた、あさがおの花の折り紙は季節感を感じさせる。体験学習に来た小学生の写真入りの手紙、保育所のうちわに書かれた夏祭りの案内状が飾られ、居心地良く過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは誰でも気兼ねなく使えるように配慮している。又、環境整備を行い、安全と清潔の保持に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に要望をうかがい、居室には使い慣れたものを持ち込めるよう配慮している。又、写真やタペストリーを飾るなどして、利用者好みの暮らしやすい環境づくりに努めている。	使い慣れたタンス、ベッド、茶碗などを持ち込んでいる。マッサージ器や携帯電話を使用している方もいる。壁には孫や家族の写真を飾っている。植木鉢のシクラメンに水をやり、花が咲いたと喜んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にわかりやすいように表札をつけたり、手すりの設置や、家具の配置に気を配り、常に使いやすく安全な環境づくりに努めている。		

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300244		
法人名	社会福祉法人 迫川会		
事業所名	いちようの里 グループホーム ぎんなん荘	(ユニット名 南棟)	
所在地	宮城県栗原市築館字下宮野館108		
自己評価作成日	平成27年7月16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望にあわせた外出(買い物、ドライブ等)や、季節を感じていただくための外出(花見、あやめ、蓮、白鳥見物等)、外食や保育所・小学校の子供たちとの交流など地域との関わりを多く持つよう努めている。 ・朝のミーティング後危機管理訓練を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、介護支援事業所、グループホーム2棟が一体となって運営されている。公共施設、商店街、田園地帯を一望できる小高い山にホームはある。災害の準備もしっかり行われており、毎朝入居者と災害訓練を行い、合図に応じた避難行動が身についている。隣の保育所、小学校、中学校、地元住民との交流も深く、夏祭り、季節ごとの行事には参加者も多く地域に密着したホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 いちちょうの里グループホームぎんなん荘)「ユニット名 南棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	避難訓練、花植え、慰問、法人としての理念、グループホームとしての介護目標をたて実践。	職員は入居者の思いを大切に生活支援と地域の交流を大切に理念を毎日朝礼で唱和し、共有している。介護目標は、各ユニットでミーティング後に確認しあい日々のケアに反映し、年1回見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所、小学校との交流。慰問での地域との交流。又、小中学校との交流の際には職員と利用者が製作した雑巾などを寄贈している。	北保育所の夏祭り、宮野小学校の運動会に招待され車椅子の人も参加した。小学4年生は1年間担当し入居者を訪問している。送られた写真入手紙を枕元に飾っている。ボランティアの歌や踊り、紙芝居の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どのようにアプローチをすれば良いのか推進会議で話し合いをしたことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で色々情報交換して実践に活かしている。	市の職員、包括センター職員、区長、民生委員、家族代表、入居者の参加で年6回開催している。ホームの課題である防災の地域協力体制、消火栓場所の確認を関係者間で話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きその都度話している。又、必要があれば相談している。	受診における職員対応の相談や亡くなった方の身元引取りなどに関し、市に相談している。市の健康祭りにキャラバンメイトで構成する、認知症の劇に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や迫川会の身体拘束委員会、研修委員会での身体拘束をしない取り組みや、外部の研修会に参加し廃止に取り組んでいる。	言葉や行動の制限をしていないか、日常を振り返り勉強会をしている。帰宅願望の方が玄関の自分の靴を確認して安心するなど、その人にあつた対応をすることで無断で外出する人はいない。運営推進会議で地域での見守りをお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や外部の研修会に参加し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在南棟利用者の中に対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定とその時々で身元引受人などに、分かりやすい説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に家族と利用者の代表者が出席している。グループホームの北、南棟にそれぞれ意見箱を設置しているが利用されていない。意見、要望は常時受け入れている。	要望等は家族来所時に聞き取り、こまめに記録し、職員間で共有している。行事後の懇談会や利用料の支払い日に家族から意見を聞いている。家族の相談にのったり季節食や郷土食の要望に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や各棟の申し送り等で意見、提案を聞き反映し活かしている。	物品購入等の要望は掲示板に書き込み申請している。パソコンソフトやシートベルト、夜勤用電気スタンドなどの要望を反映し購入した。ストローの使用やケアの仕方についてなど、提案があり話し合い対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は行われていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新たに配属された職員には、マニュアルに沿って指導担当職員を配置し、新人研修を行っている。又研修委員会を通じ、職員研修等行うことで個々の能力アップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栗原市内の老人福祉施設等親善ゲーム大会に参加し、交流を図っている。また、グループホーム協議会に加盟している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族と話をし、生活歴を把握し、又傾聴しながら本人の訴えや要望を聞き、安心して頂けるよう信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、在宅プランを参考にし、本人や家族の要望を聞き入れている。毎月、近況報告の手紙や面会時、又は必要に応じ電話でお話し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望が叶えられるよう、家族他職種、専門職と連携を図り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般で職員は、利用者に寄り添いながら、共存、共栄の気持ちを大切にしている。出来る事への見守り、出来ない事への声掛け支援。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙又は、電話等で面会、外出、外泊の協力を得ている。迫川会で行っている行事には、必ず案内状を出し、出席して頂けるよう促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区に戻り、老人会等の集まりに参加している。(静さん)床屋、洋服屋さんに通院時等寄ってくる時がある。(りを子さん)	孫が結婚式の様相で面会に来た。買い物は同級生の店と決めている。お盆に帰宅する方がいる。伊豆沼など昔馴染みの所に職員と行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格を考慮しテーブル配置、席の場所等、トラブルにならない様、常に配慮している。そのために、職員間の申し送りをきちんと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に行われていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか発語が困難なため、聞き取れないことがあり、職員間で本人の視点に立ち「出来ないから、無理だから」と決め付けず、意見を出し合い、話し合っていく取り組みを心がけている。	思いや、希望を寄り添いながら聞いている。家族のことや畑を作っていたこと、趣味のことなどを話してくれる。言葉が少なく把握困難な方でも、排便時腹を叩く、機嫌が悪い時はトイレなどのサインを把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントのための情報収集シートと、センター方式の様式を併用し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の状態を生活状況記録、申し送りノートを活かし、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当介護士が中心となり、本人や家族の話を聞き、介護計画に反映している。	担当者と話し合い、主治医、本人、家族の意向を聞きケアプランを作成している。6か月ごとに見直し、本人、家族の同意を得ている。持病のある方は医師の指示で減塩、体重等の調整を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況記録をはじめ、個人の記録を作成し、ケアプランチェックを毎日行っている。職員間で情報を共有することで、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて出来る範囲内で臨機応変に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物や、地区行事への参加で、生きがいと楽しみを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を、家族と連携をとり、主治医と信頼関係を築く事に努めている。	全員がかかりつけ医の受診である。通院付き添いは家族が基本であるが5名はホーム職員対応である。今後は家族と相談し、訪問診療を考えている。歯科医が2週間に1回口腔ケアで来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在GHIには看護師が配置されていないため、主治医との連携をメインに置いている。日中何かあった際はホームの看護師にアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週二回洗濯物を取りに行きながら、利用者の様子を伺い、看護師や医師と家族とのパイプラインを作ったり、話し合いにも参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師不足のため現在は行っていない。	入居時看取りに関する指針、急変時対応指針を示しホームで出来ること、出来ないことを説明し本人、家族の同意を得ている。高齢化、重度化も含め関係者間で今後更に話し合いを重ね、前向きに検討していただきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で緊急時の対応講習、又勉強会、毎日の訓練で緊急マニュアルを確認しながら訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年に二回の避難訓練を行っている。毎日の避難訓練の中で随時に練習している。	地域ボランティアの方々も避難誘導や見守りに協力参加している。ホーム独自では毎日ミーティング後危機管理として職員はヘルメット、入居者は防災頭巾をかぶり地震、漏電等にも備え訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴、様子を知り訴えに傾聴しながら、それぞれが希望する支援をする。又声掛け等で対応する。	名前は「さん」付けである。トイレ誘導、失禁時は周りの人に気づかれないようにしている。プライバシーを尊重して居室と浴室の前に衝立をしている。外出時、互いの服を選び合い出掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる環境づくりや、声掛け支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ること、出来ない事を把握し、見守りながら出来る限り要望に沿える支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類、身の回りの物を家族と連絡を取り、担当職員が主となり、環境整備にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、季節にあった食事、手作りおやつ、外出、出前をとって食べる等の楽しみを持てるよう支援。出来る範囲で片付け等の手伝いを一緒に行う。	栄養士が1ヵ月分の献立を作成し、調理は職員が行い、準備や片付けを手伝う入居者もいる。行事食の手巻き寿司やおやつのホットケーキ、郷土料理のはっと汁などを一緒に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取状況に問題がある場合は記録し状況把握に努め、毎月体重測定の実施。ホーム管理栄養士、主治医とも連携をとり指示を受ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい又は、歯磨きの声掛け見守り。利用者により、訪問歯科受診支援している。夜間は義歯洗浄の支援。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	三月に入所した利用者様。入所前はいつもパット、オムツが汚れていたとの事。入所後、排泄のパターン状況に応じトイレでの排泄が出来るようになってきている。	一人ひとりの状況に合わせて誘導している。一人で行く方、介助の方全員がトイレを使用している。入居時にオムツ使用の方が、夜だけオムツで日中はリハパンに改善された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常時排泄表を用いて確認、チェックしている。又主治医との連携により、下剤の調節等実施。各利用者に応じた対応。朝食前に牛乳の摂取、体操等で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う人同士の入浴。声掛けしながら、楽しくたを歌ったり話をしたり、コミュニケーションをとりながら行っている。それぞれ、羞恥心や恐怖心等ないような声掛けと雰囲気作り。	1番風呂や熱い風呂に入る方、仲よし同士2～3名で入る方などに合わせ、週5～6回支援をしている。拒む方は時間を置いたり、職員を代えて「下着を取り替えましょう」と工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないよう、日常の生活にポイントをおいて、メリハリのある生活が送れるよう環境づくりをしている。基本的に、利用者が好きに過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の申し送り、処方箋等の活用。薬作りも複数で確認。服用時も必ず職員二人で確認し、本人へ名前と朝、昼、夕等声を出して再度確認。薬変更時は申し送りと様子観察で症状の変化の確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で家事全般、出来ることへの支援をし又、一人一人の生活歴や出来る力を活かして楽しみや趣味を見出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人在住地の地区の集まりに参加している。家族と通院後の食事買い物を楽しみにしている為継続出来る様見守り支援している。いきたい時にドライブ買い物等状況を見ながら実施。月行事で外食ドライブ等出掛けられるよう機会を設けている。施設を利用した講習会を地域の人たちが参集している。	天気の良い日は車椅子の方も一緒にホーム周辺を散歩する。広々とした玄関前で日光浴を楽しむ方もいる。希望を聞いてドライブは若柳のお花見、花泉のぼたん園、伊豆沼のはす祭り等四季折々に出掛け季節感を味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度持っている利用者もいる。(本人管理で家族も了解)こちらで預かり、買い物や本人が必要とするとき購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者もおり、自由に使い電話している。家族から電話があった時、本人へ取次ぎ話ができる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の整理、整頓、生活感や季節感を採り入れ、我が家であることを大切にしている。環境整備(不快感、清潔感、怪我等ないこと)	リビングは広く明るく、臭気や空気の淀みがない。手染め和紙で作られた、あさがおの花の折り紙は季節感を感じさせる。体験学習に来た小学生の写真入りの手紙、保育所のうちわに書かれた夏祭りの案内状が飾られ、居心地良く過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの配置等にて、その人がその人らしく過ごせる場所になるよう工夫している。利用者同士、気の合う人と楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と一緒に話をしながら希望通り整理したり、好みのものを使えるようにしている。入所時に説明はしているものの、馴染みの物を持ってきて頂ける家族が最近入所した方の場合あまりみられない。	使い慣れたタンス、ベッド、茶碗などを持ち込んでいる。マッサージ器や携帯電話を使用している方もいる。壁には孫や家族の写真を飾っている。植木鉢のシクラメンに水をやり、花が咲いたと喜んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標示、一人一人居室前に名前の標示をしている。常に使いやすく安全な環境づくりに努めている。		